

No.21

PP. 157 ~ 166

20. II. 1978

寄せ蛾記

埼玉蛾類談話会稽行

YOSEGAKI : THE SAITAMA HETEROCHERISTS' GROUP

飯能で採集したセセリチョウ数種の 幼生期の記録(II)

信太利智*

コチャバネセセリ

- 採集記録のみを掲げる。飼育は蛹化習性の観察のみを目的としたため、個体別の経過記録はどうなかった。
- 「亜終齢幼虫」としたもののは推定4齢、「終齢」は同5令である。

<記録>

- 幼虫8(若齢～亜終齢)。1966-VIII-28: アズマネザサ1, クマザサ1, ハンノウザサ6.
- 卵1(当日産下)。幼虫3(1齢1, 推定2齢1, 亜終齢1)。1967-VIII-8, アズマネザサ
- 幼虫3(亜終齢1, 終齢2)。1967-IX-3: ハンノウザサ1, クマザサ2.
- 卵1(当日産下), 幼虫1(1齢)。1968-VI-9: アズマネザサ.
- 幼虫39(中齢～終齢<地上蛹巣内2>)。1968-VII-7: クマザサ32, アズマネザサ7. (天覧山のクマザサに多数発生)
- 幼虫2(1齢1, 終齢1)。1968-VIII-4: アズマネザサ
- 幼虫33(推定3齢4, 亜終齢10, 終齢19<落葉前の蛹巣内1>)。1968-IX-8: アズマネザサ5, クマザサ28. (天覧山のクマザサに多数発生)
- 幼虫2(亜終齢1, 終齢1)。1971-VII-25: アズマネザサ
- 幼虫9(終齢)。1969-X-10: アズマネザサ, クマザサ2.

まとめ

夏世代は6月上旬の卵・1齢幼虫から8月上旬の亜終齢・終齢幼虫まで、また越冬世代は8月上旬の卵・若齢幼虫から10月上旬の終齢幼虫までを得ている。したがって8月上旬には、前者の高齢幼虫と後者の若齢幼虫とが共に見られる。

東京都区内には3回目の幼虫が少數出現する(したがって一部が年3化となる)生息場所があるが、飯能では見られない。

食草はクマザサ(天覧山東面)とアズマネザサ(全城)が主であるが、概して高密度には発生しない。しかし、1968年には2世代にわたってクマザサに多数の幼虫が出現した。その後は天覧山南面に墓地が造成されて環境が変わり、目立つ発生を見ない。

信太利智*: 千葉市真砂3-17-3-202 (〒280)

キマタラセセリ

- ・本種も採集記録のみとする。しかし越冬準備、蛹化、羽化について現地での経過と大差ないと思われるものは、そのデータを付記した。
- ・本種は地上蛹化の場合も多いが(信太, 1976), この調査では地上の巣の探索はほとんどしていない。

<記録>

- 1) 蛹殼 1 (食草上蛹巢内), 死幼虫 1 (食草上蛹巢内, 寄生バエによる)
卵 1 (当日産下), 若~中齢幼虫 4. 1966-VIII-28: ススキ (蛹殼, 幼虫 3), オオアブラズスキ (蛹巢内死幼虫, 幼虫 1), アキノエノコロゲサ (卵).
- 2) 幼虫 1 (終齢). 1967-V-27: ススキ.
- 3) 幼虫 1 (終齢). 1967-VII-23: ススキ.
- 4) 蛹 1 (食草上蛹巢内). 1967-VIII-8: オオアブラズスキ.
1967-VIII-18 蛹化(♀) [室内容器].
- 5) 幼虫 4 (中齢 3, 終齢 1). 1968-V-5: ススキ.
- 6) 幼虫 1 (終齢). 1968-VI-2: ススキ.
- 7) 幼虫 5 (中齢). 1968-VIII-4: オオアブラズスキ.
- 8) 幼虫 2 (中齢). 1968-IX-29: ススキ 1, トダシバ 1.
- 9) 幼虫 1 (中齢). 1969-IV-20: ススキ.
- 10) 幼虫 2 (亞終齢 1, 終齢 1). 1969-VI-1: ススキ
終齢幼虫: VI-2 蛹巣をつくる, VI-6 蛹化, VI-18 羽化(♀).
[室内容器, ススキ]
- 11) 幼虫 1 (亞終齢). 1969-VII-27: ススキ.
- 12) 幼虫 8 (中齢). 1969-X-10: ススキ.
幼虫 1: X-19 巣の末端を開鎖(越冬準備開始).
- 13) 蛹巣 1 (空虚). 1970-VI-14: オオアブラズスキ
- 14) 幼虫 1 (中齢, 越冬巢内). 1970-XII-27: ススキ
- 15) 幼虫 5 (中齢~高齢). 1971-V-3: ススキ 4, オオアブラズスキ 1.
- 16) 幼虫 2 (中齢~高齢). 1971-V-5: ススキ
- 17) 幼虫 3 (若齢 2, 終齢 1). 1971-VII-25: ススキ 2, オオアブラズスキ 1.
- 18) 幼虫 1 (中齢 1). 1971-X-24: オオアブラズスキ.
- 19) 幼虫 1 (終齢), 死蛹 1 (地上蛹巢内). 1972-VI-18: ススキ.
- 20) 幼虫 2 (終齢). 1972-VII-30: ススキ.
- 21) 幼虫 2 (亞終齢). 1973-IV-29: ススキ.
- 22) 幼虫 1 (1歳). 1974-VII-10: オオアブラズスキ.
- 23) 蛹 1 (食草上蛹巢内), 幼虫 3 (若~中齢 2, 終齢 1). 1974-VIII-9:
ススキ(蛹, 若齢幼虫 1, 終齢幼虫), オオアブラズスキ(中齢幼虫 1).
蛹: VIII-18 羽化(♂). [屋外容器].
- 24) 幼虫 1 (中齢, 食草上越冬巢内). 1974-XI-9: アズマネザサ.

<まとめ>

調査回数34回のうち23回は生卵、生幼虫、生蛹のいずれかを得ており、毎年ほぼ安定した発生を繰り返しているようであるが、数は必ずしも多くはない。夏世代は7、8月に集中するが、8月の若齢~中齢幼虫は次世代と判別しにくい。8月末の卵と若齢幼虫は越冬世代と見られ、10月下旬まで摂食期の幼虫を得ている。完成した越冬巢の記録は11月、12月の各1例であるが、10月10日に得た幼虫のうち1匹は同月19日に越冬準備(巣口開鎖)をはじめている。越冬後の活動開始期は明らかでないが、終齢幼虫は5月上旬~6月上旬に見られた。

採集した幼虫・蛹(または蛹巢)の総数57を食草別・時期別に分けると、

ススキ 41 (4月～10月, 12月), オオアブラスキ 13 (5月, 7～8月, 10月), トダシバ 1 (9月), アズマネザサ 1 (11月) となり, 前2種で大部分が占められる。東京の市街地で幼虫がよく見られるアズマネザサからは, 越冬中の幼虫 1を見いだすにとどまった。また, この調査結果にあらわれたススキとオオアブラスキとの差は越冬世代における差に由来するもので, 夏世代では両者ほぼ同数であった。

イチモンジセセリ

- ・水田での採集はほとんど行わず, 主としてイネ以外の植物から見いだしたもの的一部を採集した。

<記録>

- 1) 卵 5, 幼虫 5 (1齢 4, 中齢 1). 1967-IX-3 : オオアブラスキ (卵, 1齢幼虫), イネ (中齢幼虫).
- 2) 卵 1. 1968-IX-8 : オオアブラスキ.
- 3) 幼虫 4 (若齢～中齢). 1968-IX-29 : オオアブラスキ.
- 4) 幼虫 10 (若齢～中齢). 1969-X-10 : ススキ 3, トダシバ 1, オオアブラスキ 3, ヨシ 1, カマツリグサ科の1種 2.
- 5) 幼虫 1 (1齢). 1971-X-24 : ススキ.
X-27 1眼起, XI-6 2眼起, XI-13 3眼起, XI-23 4眼起, XII-7 5眼起, XII-28 蛹室づくり開始, XII-30 蛹化, 1972-I-16 羽化(♂). [XI-16 まで屋外容器: ススキ → スズメノヒエ → アブラスキ, XI-17 以降室内容器: アブラスキ → ナリヒラタケ]
- 6) 幼虫 3 (1齢). 1972-VI-18 : サヤヌカグサ.
 - 1: VI-19 1眼起, VI-23 2眼起, VI-28 3眼起, VII-2 4眼起, VII-8 5眼起, VII-24 蛹室づくり, VII-25 蛹化, VII-2 羽化(♀). [屋外容器: サヤヌカグサ → ススキ → ナリヒラタケ]
 - 2: VI-20 1眼起, VI-24 2眼起, VI-29 3眼起, VII-2 行方不明. [屋外容器: サヤヌカグサ]
 - 3: VI-19 1眼起, VI-23 2眼起, VI-25 行方不明. [屋外容器: サヤヌカグサ]
- 7) 幼虫 5 (若齢). 1972-IX-17 : ススキ 2, オオアブラスキ 3.

<まとめ>

当年の第1世代に当たると思われる若齢幼虫(第2回目に出現する成虫となるもの)の6月の記録を除き, 他の記録はすべて第3世代と思われる秋期の卵と若齢～中齢幼虫であるが, 越冬後の幼虫は発見できなかった。

幼虫を見いたした植物は, サヤヌカグサ(6月), イネ(9月), オオアブラスキ(9月～10月), ススキ(9月～10月), トダシバ(10月), カマツリグサ科の1種(10月)である。

オオチャバネセセリ

- ・アズマネザサについては見いだしたもの的一部を, それ以外の植物については全部を採集した。

<記録>

- 1) 幼虫 1 (終齢). 1966-VIII-28 : ハンノウザサ.
VIII-30 寄生バチ幼虫39匹脱出, 嘔瀉. [屋外容器: ハンノウザサ]
- 2) 幼虫 4 (推定2齢～亜終齢). 1967-VIII-8 : アズマネザサ 2, チガヤ 1, ススキ 1.
- 3) 幼虫 1 (亜終齢). 1968-V-5 : ススキ

V-15 寄生バチ 脱出、營繭。

- 4) 幼虫 2 (終齢). 1968-VI-2 : アズマネザサ 1, ススキ 1.
 - 1: VI-2 前蛹化, VI-4 死. [屋外放飼: ナリヒラタケ]
 - 2: VI-7 行方不明. [同上]
- 5) 幼虫 3 (終齢). 1968-VI-9 : オオアブラススキ 1, アズマネザサ 1,
ケマザサ 1.
 - 1: VI-12 前蛹化, VI-13 蛹化, VI-23 羽化(♂). [屋外放飼
: ナリヒラタケ]
 - 2: VI-13 前蛹化, VI-14 蛹化, VI-24 羽化(♂). [同上]
 - 3: 記録なし.
- 6) 幼虫 1 (中齢). 1968-VIII-4 : ススキ.
- 7) 幼虫 1 (亞終齢). 1969-VI-1 : ススキ.
- 8) 幼虫 5 (1齢 3, 推定2齢 2). 1969-VII-27 : アズマネザサ.
- 9) 幼虫 1 (越冬裏収集: 若齢). 1970-II-11 : アズマネザサ.
- 10) 幼虫 1 (終齢). 1970-VI-14 : ススキ.
VI-23 蛹化準備開始(吐糸作業), VI-24 前蛹化, VI-25
蛹化, VII-8 羽化(♂). [屋外容器: ススキ → ナリヒラタケ]
- 11) 幼虫 1 (若齢). 1971-V-5 : ススキ.
V-9 脱皮(1), V-17 脱皮(2), V-23 脱皮(3), V-30
脱皮(4), VI-10 前蛹化, VI-11 蛹化, VI-26 羽化(♂).
[屋外容器: ススキ]
- 12) 幼虫 1 (若齢). 1971-VII-25 : ススキ.
- 13) 卵 1, 幼虫 1 (1齢). 1972-VII-18 : アズマネザサ
- 14) 幼虫 2 (若齢 1, 中齢 1). 1974-VIII-9 : ヨシ(若齢), オオアブラ
ススキ(中齢).

<まとめ>

夏世代の記録は7, 8月に集中している。越冬世代については越冬前の記録を欠くが、越冬後の幼虫を少数採集しており、終齢幼虫は6月上旬~中旬に得ている。

東京などの低地と同じくアズマネザサからはじまでは幼虫を見いたしたが、このほかに幼虫を得た植物として、ハンノウザサ(8月), クマザサ(7月), チガヤ(8月), ススキ(5, 6月および7, 8月), オオアブラススキ(7, 8月), ヨシ(8月)の6種があり、いずれも食痕が見られた。

(未完)

川越市古谷で
ウラギンシジミを目撲

原 聖樹

1977年10月23日, 13時頃(晴),
川越市古谷でウラギンシジミ 1ex. を
確実に目撲した。

この個体は水田地帯のまん中を通
る国道16号線上を横切って飛んでい
ったもの(南→北, 地上高 5m前後).
走行中の車内から見たもので、♀♂は
確認できなかった。

黒部上流 槇平の
スズメガ2種の記録

松本 和馬

1977年5月29日に、次の2種の蝶
を槇平で確認したので報告する。

- 1) *Oxyambulyx japonica*
ROTHCHILD フトオビホソバスズメ 1ex.
- 2) *Marumba jankowskii*
OBERTHÜR ヒメクナバスズメ 1ex.

柏崎のギフチョウとその食草

松本和馬

1977年4月17日、筆者と碓井徹氏は、柏崎市剣野町付近を訪れ、ギフチョウとその食草と考えられるコシノカンアオイ (*Heterotropa megacalyx* F. MAEKAWA) を確認した。

碓井は以前同市に居住していたが、市街地であり沖積平野内にある市立比角(ひすみ)小学校の校庭、および、今回も訪れることができた極楽寺などでギフチョウを採集した経験があるとのことである。

極楽寺には、わずかにコシノカンアオイと思われるものが見られたが(花はついていない)、ギフチョウの姿はなく、環境も碓井がかつてギフチョウを採集した頃とはだいぶ違ってしまったようだ。

今回ギフチョウを確認したのは、剣野町地内の米山に続く丘陵の末端である。低湿地と台地の接するところにコシノカンアオイの群落が点在し、ギフチョウが時折り姿を現わした。

当日採集した他の蝶の記録も加えて報告する。

ギフチョウ 5♂ (採) : 新鮮, 1♂がソメイヨシノに似たサクラで、またキクザキイチリンソウで数回吸蜜を観察した。

モンシロチョウ 2♀ (採) : 新鮮
ルリシジミ 2♀, 2♂ (採) : 新鮮

コツバメ 1ex. (目撃)
ルリタテハ, アカタテハ, ヒオドシショウ
(以上目撃)

なお、ギフチョウは発生初期と思われ、♀は見られず、もちろん卵・幼虫も見つからなかったが、コシノカンアオイの他には、食草と考えられるものが生えていたので、この地のギフチョウはコシノカンアオイを食草としていると見てよいであろう。

ちなみに、ギフチョウには var. *nakamurae* というのが記載されているが、その模式産地はここ柏崎である。

富山県東部のギフチョウとその食草の調査記録

松本和馬

筆者と碓井徹氏が1977年に富山県東部で行った、クロヒメカンアオイを食していると思われるギフチョウに関する調査記録をする。

クロヒメカンアオイ (*Heterotropa yosikawai* F. MAEKAWA) については、清邦彦氏におそらくクロヒメ、であろうとのことを確認して頂き、確認を期すため、前川文夫博士に同定を依頼中である。

• 1977年4月24日、宇奈月町宇奈月温泉
調査者 松本和馬・碓井徹

ギフチョウ1頭を目撃、クロヒメカンアオイの群落と、黒部川左岸の山腹急斜面に見る。その花と数株を採集。

• 1977年4月24日、入善町東南部舟川上

流左岸の山地、調査者、同上。

チョウは見られなかつたが、クロヒメカンアオイの群落を1ヶ所発見。

• 1977年4月27日、宇奈月温泉
調査者 碓井徹
ギフチョウ 5(目撃), 3♂ 汚損および汚損度中位、採集。

• 1977年5月8日、宇奈月温泉
調査者 松本和馬
卵を採すが未発見。

• 1977年5月8日、宇奈月町浦山
調査者 同上。
クロヒメカンアオイの群落を広範囲にわたり発見し、3卵群を得た。

松本和馬*: 金沢市野町3~19~34 開谷アパート (〒921)

- 1977年5月29日、糸月温泉～樽平
調査者 松本和馬
宇奈月温泉にて幼虫を探すが発見できず。より上流の子を知りたくて、黒部峡谷鉄道に乗って樽平へ行って見たが、ギフチョウの居そは環境は宇奈月温泉よりも上流にはあまり期待できない。
- 1977年11月10日、魚津市東山。
調査者 松本和馬・碓井徹
富山県立山のギフチョウの食草は、片貝川をもって東にクロヒメカンアオイ、西にヒメカ

ノアオイと住み分けるらしい¹⁾ことを読み、その東岸を調べることにした。

クロヒメカンアオイの群落を発見し、それとは別に、ヒメカンアオイに似たものさ1株だけ(これは種子によるものか?)を見たので、それは生かした状態で採集した。これと同じものは周囲の林木を採したが結局発見できず、また採集した株は花芽をつけていないので、今後に種名の決定ができぬいでいる。

¹⁾田中忠次(1976) 富山の動物。

(石川県)白山の蛾

金沢通信(1)

市川和夫

金沢大学理学部の碓井徹、松本和馬の両氏が金沢市内あるいは石川県およびその近隣の各県で蝶類の研究を実施し、その成果の一部は本誌などで報じられている。その間、蛾類も採集されて標品を筆者に提供されたものが若干あり、それらも送って下さることなどのことで、金沢通信として番号を付け、整理済みのものから記録することにした。

記録個体はすべて筆者が保管しているが、標品を提供して下さる両氏に深謝する。

1. *Sinna extrema* WALKER アミメリンガ(有斑型)
白山岩間温泉, 1♀, 8. IX. 1977 碓井徹(採)
2. *Syngrapha alpina* ICHINOSE アルプスキンウツバ
白山(上部), 1♂, 22. VIII. 1977 松本和馬(採)
3. *Melochrista pulchra* BUTLER ゴマダラベニコケガ
白山岩間温泉, 1♀, 8. IX. 1977 碓井(採)
4. *Dasychia eurydice* BUTLER フドウドクガ
白山岩間温泉, 1♂, 8. IX. 1977 碓井(採)
5. *Pseudandraca gracilis* BUTLER カギバモドキ
白山岩間温泉, 2♂, 8. IX. 1977 碓井(採)
6. *Hydriomena furcata nexifasciata* BUTLER
ヤナギナミシタク
白山甚助平, 1♂, 23. VII. 1977 松本(採)
7. *Entephria caesiata nebulosa* INOUE サザナミナミシタク
白山(上部), 5♀ 2♂, 22. VIII. 1977 松本(採)
8. *Dulioptyle agitata* BUTLER ヒロオビエタシタク
白山岩間温泉, 1♂, 8. IX. 1977 碓井(採)

(市川和夫: 浦和市大谷塙1270 〒336)

奥武藏の蝶 6種の記録

加藤輝年

下記の6種の蝶は奥武藏地域では稀なものであるので、分布資料として筆者の記録をとどめておきたい。

1. *Aeromachus inachus* MÉNÉTR. ホシチャバネセセリ
川場坂峠(都幾川村側) : '76. VII. 24, 1♂. '76. VIII. 12, 4♂.
2. *Ussuriana stygiana* BTLR. ウラキンシジミ
飯能市子の神戸～川場坂峠間の路上 : '75. VII. 18, 1♂(死亡個体).
3. *Araragi enthea* JANS. オナガシジミ
川場坂峠(都幾川村側) : '74. III. 25, 8♀. '74. XII. 1, 65♀.
'75. VIII. 24, 1♂ 26♀. '76. VI. 24, 1♂. 以上、いずれも卵はオニグルミより採.
4. *Antiquis butleri* FENTON ウスイロオナガシジミ
横瀬村九山西尾根 : '75. VII. 18, 2♀.
同 東尾根 : '76. III. 11, 2♀(カシワより).
5. *Favonius ultramarinus* FIXSEN ハヤシミドリシジミ
丸山尾根周辺 : '76. III. 11, 7♀(カシワより). '76. VII. 24, 1♀.
6. *Celastrina sagitanii* MATS. スギタニルリシジミ
飯能市間野(西吾野の) : '75. V. 5, 1♂. '76. IV. 17, 1♂.

なお、奥武藏地域に含まれる飯能市内だけでも、筆者の確認したものに文献からの記録を加えると、現在までに87種の蝶が知られているので、この地域でのさらに詳しい調査に期待したい。

(加藤輝年：飯能市坂石町分138 地番357-02)

紹介： MEMEZU 第2号 埼玉県立越生高校理科部生物科(1978年2月発行)

孔片版 58頁 + 分布資料 20頁

業者に依頼せず、自分で印刷・販売したものであるが、指導者(南部敬明氏)の技術によりきれいな仕上りと立派な内容である。とくに分布資料は蜂およびハゲダニの昆虫の分布に開心を持つ人には入手をおすすめします(送料等をかねます)問い合わせて請求のこと)。

昆虫図鑑は校舎内に入った昆虫、新種発見(アマコアと学名とのかかわりあり、個人的体験から)、分布資料は、越生の生物(蝶・蛾・ハエ・アブ・カメムシ・蜂)、寄居の蜂、埼玉および県外の蜂であります。

近刊： 埼玉県動物誌 埼玉県教育委員会(1978年3月発行予定)

活版 カラーグラビヤ8頁、本文550頁くらい

セキツイ動物、節足動物、軟體動物について県内産の目録等を掲載したものの、本会会員で執筆しているのは、齊藤良次(甲虫)、野沢雅美(カメムシ)、原善樹(蝶)、市川和夫(蜘蛛)で他に蜂は南部敬明、トホホは良須原太郎氏から寄せられます。購入法その他詳細については次号でお知らせします。(K.I.)

埼玉県で撮影した10種のトンボ

碓井徹

筆者は蝶の生態を観察するかたわら、若干のトンボの生態写真の撮影もしてきたので、所持しているスライドのデータを報告し、何かの役に立てばと思っています。

- | | | |
|---------------|----------------|-----------|
| 1. アジアイトンボ | '72. IV. 29, | 秩父郡皆野町三沢 |
| 2. キイトンボ | '70. VII. 11, | 大宮市御藏 |
| 3. モノサシトンボ | '73. VIII. 10, | 秩父郡長瀬町長瀬 |
| 4. オツネントンボ | '71. VII. 11, | 浦和市秋ヶ瀬 |
| | '74. X. 10, | 秩父郡大滝村三峰山 |
| 5. ホンサンエ | '72. IV. 29, | 秩父郡皆野町三沢 |
| 6. ミヤマサンエ | '72. VIII. 2, | 秩父郡大滝村雲取山 |
| 7. カワトンボ(透明型) | '70. VI. 21, | 飯能市黒指 |
| (“ ”) | '72. VIII. 4, | 秩父郡大滝村入川 |
| 8. ヤブヤンマ(♀) | '70. VII. 3, | 浦和市領家 |
| 9. ヒメアカネ(未熟♂) | '70. VII. 16, | 大宮市御藏 |
| 10. ミヤマアカネ(♀) | '71. IX. 24, | 熊谷市荒川堤防 |

(碓井徹: 金沢市 緑が丘 14-10 松田方テ921)
3月には移転する。

(埼玉県産蛾類分布資料 47)

大宮台地南端部の蛾(1)*

並木彬雄

埼玉県の南東部には、荒川低地と東部低地にはさまれた細長い台地があり、海拔30m足らずであるが大宮台地と呼ばれている。その南端の浦和・川口から鳩ヶ谷付近は苗木の生産地として有名で、その中心地が安行である。

さて、筆者は1969年の春に川口市戸塚一本木小公園(戸塚と表記する)、川口市神根(神根)、浦和市大門の大門小学校(大門)で夜間採集を行ったが、3月と4月に得たものを記録する。(一部1968年のものを含む)

ヒトリガ科

1. *Spilasoma lubricipeda* キハラゴマダラヒトリ 大門 1♂ 1♀ 9. IV. '68

ヤガ科

1. *Apatele catocaloida* ナシケンモン 大門 1♂ 12. IV. '69

2. *Diarsia canecens* オオバコヤガ 戸塚 1♂ 9. III. '69

3. *Agrotis fucosa* カブラヤガ 大門 1♂ 9. IV. '68, 1♂ 12. IV. '69;
神根 1♂ 10. IV. '69

4. *Cerastis pallescens* ガギモンキリガ 戸塚 3♂ 6. IV. '69

5. *Mamestra illoba* シロシタヨトウ 大門 1♂ 9. IV. '68

6. *Orthosia evanida* カバキリガ 戸塚 1♀ 1♂ 6. IV. '69;

神根 1♀ 12. IV. '69; 大門 1♀ 7. IV. '68, 1♀ 9. IV. '68

7. *O. paromoea* ブナキリガ 神根 1♀ 12. IV. '69

8. *O. fausta* クロテンキリガ 大門 1♂ 9. IV. '68

* この報文は1970年に編集者に提出されていたものであるが、当時住居を建て替え中で引越し中に紛失したものを見つけていたので、最近発見しました。謹んでおわびし、ここに掲載します。

9. *Orthosia munda* スモモキリガ 神根 1♀ 10. IV. '69, 2♂ 12. IV. '69,
 3♂ 6. IV. '69 : 大門 1♀ 9. IV. '68
 10. *O. cedermarki* ウスベニキリガ 大門 1♂ 12. IV. '69
 11. *O. odiosa* チャイロキリガ 大門 1♀ 12. IV. '69
 12. *O. angustipennis* オソバキリガ 戸塚 1♂ 9. III. '69 (糖蜜で採集)
 13. *O. carnipennis* アカバキリガ 神根 1♂ 10. IV. '69 : 戸塚 2♂ 6. IV. '69
 大門 2♂ 9. IV. '68
 14. *Xylomyges bella* クロスジカギモンキリガ 神根 1♀ 1♂ 10. IV. '69,
 5♀ 8♂ 12. IV. '69 : 戸塚 1♂ 6. IV. '69 : 大門 1♀ 2♂
 9. IV. '68, 3♀ 3♂ 12. IV. '69
 15. *Xylena fumosa* アズモクメ 神根 1♂ 10. IV. '69
 16. *X. formosa* キバラモクメ 戸塚 1♀ 4♂ 9. III. '69 (糖蜜で採集)
 17. *Eupsilia contracta* ウスミミモンキリガ 戸塚 2♀ 1♂ 9. III. '69,
 1♂ 6. IV. '69 (いずれも糖蜜で採集)
 18. *E. tripunctata* ミツボシキリガ 戸塚 2♂ 9. III. '69
 19. *E. strigifera* ヨスジキリガ 戸塚 3♂ 9. III. '69 育本採・並木保管
 20. *Lithophane ustulata* ハンキリガ 神根 1♂ 12. IV. '69
 21. *Rhynchaglaea fuscipennis* クロチャマタラキリガ 戸塚 2♀ 2♂
 9. III. '69 (糖蜜で採集)
 22. *Conistra grisescens* ミヤマオビキリガ 戸塚 3♂ 9. III. '69, 1♂
 6. IV. '69 (糖蜜で採集)
 23. *Perinaenia accipiter lignosa* モクメカラスヨトウ 大門 3♂
 9. IV. '68
 24. *Athetis cinerascens* クロテンヨトウ 大門 1♂ 7. IV. '68, 3♂
 9. IV. '68
 25. *Characoma ruficirra* ネスジキナガワガ 神根 1♂ 12. IV. '69
 26. *Hypena belinda* ナカジロアツバ 戸塚 1♂ 9. III. '69
 27. *Hydrillodes morosa* ソウスグロアツバ 大門 2♂ 12. IV. '69
 トガリバガ科
 1. *Demopsestis punctigera* ホシボシトガリバ 神根 1♂ 10. IV. '69:
 戸塚 1♂ 7. IV. '68 : 大門 1♂ 12. IV. '69

シキチホコ科

1. *Clostera anachoreta* ツマアカシキチホコ 神根 1♀ 10. IV. '69
 2. *Cerura vinula felina* モクメシキチホコ 大門 1♂ 7. IV. '68

シャクガ科

1. *Pylargoscelis steganoides* フタナミトビヒメナミシャク 大門
 2♂ 9. IV. '69, 1♂ 12. IV. '69
 2. *Trichopteryx terranea* チャオビコバネナミシャク 大門 1♂ 12. IV. '69
 3. *T. volitans* ウスベニスジナミシャク 戸塚 1♀ 7. IV. '68
 4. *Nycterosea obstipata* トビスジヒメナミシャク 大門 1♂ 12. IV. '69
 5. *Rhyynchobapta punctilineara* モンオビオエダシャク
 大門 1♂ 9. IV. '68
 6. *Ectropis excellens* オオトビスジエダシャク 大門 1♂ 9. IV. '68
 7. *Planociampa antipala* ヒロバトガリエダシャク 戸塚 1♂ 6. IV.
 '69 : 大門 1♂ 9. IV. '68
 8. *Zamacra juglansiaria* オカモトゲエダシャク 戸塚 1♂ 9. III. '69
 9. *Biston robustum* トビモノオエダシャク 戸塚 3♂ 9. III. '69

10. *Planociampa modesta* ホソバトガリエダシク
戸塚 ♂ 9. III. '69
11. *P. antipala* ヒロバトガリエダシク 戸塚 ♂ 6. IV. '69:
大門 ♂ 9. IV. '69
12. *Heterolocha stulta* ベニスジエダシク 大門 ♂ 7. IV. '68
13. *H. aristonaria niphonica* ウラベニエダシク
大門 ♂ 9. IV. '69, ♂ 12. IV. '69

メイガ科

1. *Euzophera bigella* フタモンマグラメイガ 戸塚 ♂ 20. IV. '69
2. *Palpita nigropunctalis* マエアカスカシメイガ
大門 ♂ 9. IV. '69

(並木樹雄: 川口市並木元町5-2 #332)

日野春～長坂 7月中旬の蝶

原 聖 樹

1967年7月14日(晴)、国鉄中央本線日野駅から長坂駅(山梨県北巨摩郡)まで、線路に沿いその周辺の丘陵上を歩いた。その際に確認できた蝶は次のとおりである。
◎は新鮮、●は汚損、◎は鮮度がその中間にあると思われる個体を示す。

1. ダイミヨウセセリ 1ex. ◎
2. ホシチャバネセセリ 3♂ ◎
3. ホソバセセリ 多数 ♀ ◎
4. アカセセリ 1♂ ○
5. キマダラセセリ 1♀ ○
6. オオチャバネセセリ 若干
7. キアゲハ
8. アゲハ 1♀ ○
9. ヒメシロチョウ 2♀ ◎ (日野春のみ)
10. キチョウ 多数♀♂○○, 少数♀♂●
11. モンキチョウ
12. スジグロシロチョウ 1♂ ●
13. エゾスジグロシロチョウ 1♀ ◎, 2♂ ●
14. ウラギンスジヒョウモン 1♀ ○, 多数♂ ○
15. ウラナミアカシジミ 1ex. ●
16. ミズイロオナガシジミ 3exs. ◎
17. ミドリシジミ 1♀ ○ (A型), 1♀ ○ (AB型)
18. トラシジミ 多数♀♂ ○ ○ (裏型)
19. ベニシジミ
20. ヤマトシジミ
21. ルリシジミ 1♀ ○, 1♂ ○
22. ツバメシジミ
23. ミヤマシジミ 1♀ ○, 1♂ ○, 2♂ ○
24. ウラギンスジヒョウモン 1♀ ○, 多数♂ ○
25. ウラギンヒョウモン 1♂ ○
26. コミスジ
27. オオミスジ 1ex.
28. ルリタテハ 1♀ ○ (ホトギスに産卵)
29. オオムラサキ 多数♀○, ♂○, 少数♂○
30. ジャメイチョウ 1♀ ○, 多数♂ ○
31. クロヒカゲモドキ 多数♀○, 少数♀○
32. キマダラモドキ 1♀ ○
33. ヒメジヤノメ

(原 聖 樹: 神奈川県津久井郡津久井町中野617 北相模 #220-02)